

2012

広報

おばま 2



《表紙》

阿納区の子どもたち11人が漁船に乗り込み、伝統の舟祝いを行いました。「たんたん棒」と呼ばれる木の棒で、古くから伝わるはやし言葉を唱えながら各漁家の漁船のへりをたたいて、1年の豊漁と安全を祈願しました。

(1月14日)

【特集】市長新春インタビュー

『夢』を持って『夢』に向かい 『夢』の実現を目指します

【坂口アナウンサー】 あけましておめでとございませう。

松崎市長に、昨年1年間、公約実現のために取り組まれた事柄などを振り返っていただきながら、今年の抱負についてお話を伺いたいと思います。

◆昨年を振り返る

【坂口】 昨年は小浜市が市制を施行して60周年という記念すべき年でしたが、どんな年だったでしょうか。

【松崎市長】 昨年は、目指す将来像を『夢、無限大』感動おぼま、自然と文化が織りなす 地域力結集プランとする、向こう十年間のまちづくりの指針である「第5次小浜市総合計画」を策定し、スタートした節目の年でありました。

また、市制施行60周年の記念すべき年であり、本市がさらに未来へ飛躍することを願い、「結（ゆい）」をテーマとし、さまざまな記念事業を展開しました。

特に、10月に「心を結ぶ未来への

つどい」と題し、開催したメインイベントの「記念式典」や「OBAM A食のまつり」では、近隣市町のほか国内外の姉妹都市の方々、また、多くの市民、観光客、約5万人の方々に参加していただき、市制施行60周年を盛り上げていただきました。

また、かねてからその完成を待ちわびていました、舞鶴若狭自動車道の小浜インターチェンジが7月に完成しました。

一方、5月に嶺南地域を襲った台風2号は、本市に記録的な降雨をもたらし、そのつめあとは今も残っています。特に、西街道の谷田部、法海間では、依然として復旧工事が続いています。特に、地元の理解が得られれば4月から一部の区間の供用開始、8月には全面開通する予定です。

話題性では、8月14日に、本市が観測史上最高の38.1度の気温を記録し、日本一の暑さが全国ニュースで取り上げられました。また、昨年放映のNHK大河ドラマ「江」では、本市が「お初」ゆかりの地として広く全国に情報発信され、多くの観光客にお越しいただきました。

◆防災対策

【坂口】 昨年3月11日に起きた東日本大震災では、これまでに見られない大きな被害が発生しましたが、市民の皆さんが最も関心の高い、安全・安心の確保という観点から、小浜市の防災対策について、お聞かせいただけますか。

【市長】 東日本大震災の津波被害は、大変大きく、全国で津波に対する関心が非常に高まっています。

市の津波対策としては、県が行っている津波被害想定調査により示される津波高さや浸水区域をもとに、津波ハザードマップの作成や避難計画などの策定を考えています。

原子力防災については、小浜市独自で対応できる範ちゅうを超えることとなりますので、国や県による対策や計画を見極めて対処したいと考えています。

しかし、小浜市の防災計画の改定については、市として国や県の対応を待つだけでなく進められるところは進めていかなければならないと考

どの団体が、主体的に行う道路や側溝の維持、補修などの整備作業に対して、土砂、ビニール管などの原材料や重機のリースなどを助成する「市民協働地域環境づくり事業」を行っています。引き続き支援していきたいと考えています。

また、市民活動団体や事業者、市民などで構成する「協働のまちづくり市民会議」で、市民協働の意義や必要性、あり方、進め方を内容とした基本指針（ガイドライン）を3月

までに策定することとしており、策定後は、協働のまちづくりを着実に効果的に進めるため、ガイドラインの周知を図るとともに、具体的な協働の事例や協働にかかる支援策な

どについて、市民の皆さんにわかりやすく説明していきたいと考えています。

今後とも、市民・団体・事業者・行政がそれぞれの役割を認識し、お互いが対等な立場で理解し、認め合い、あらゆる情報を共有しながら、いっしょになって汗をかき、力を合わせ取り組んでいく、オール小浜体制による「協働のまちづくり」を推進していきたいと考えています。

◆元氣食育推進計画

【坂口】 「小浜市元氣食育推進計画」が平成24年度からスタートするとお聞きしましたが。

【市長】 生涯食育の推進ですが、現在、新たな計画「小浜市元氣食育推進計画」を策定中でありませう。

新しい食育推進計画では、食育が市民の「健康面に波及すること」と、「地域の産業の活性化につながる」とを重点テーマとし、これまで進めてきた「教育」や「食文化の継承」についても、さらに高いレベルを目指しながら、着実に充実した取り組みを進め、食のまちづくりの第2ステージへステップアップしていきます。



西依成齋書道展（いいとこ小浜づくり活動支援事業）



正月にチャンネルOで放送された市長の新春インタビューを抜粋して掲載しています

◆小学校の統合再編

【坂口】 小学校の統合再編に取り組まれています。どのように進めていけるのでしょうか。

【市長】 小学校の統合再編については、これまで、各地区の区長様や役員の方々に、市の考えを説明してきました。

特に、東部4地区の国富、宮川、松永、遠敷の4校の統合再編と、田鳥小学校と内外海小学校との統合を進めるため、住民の皆さんを対象とした説明会も開催し、子どもたちの未来を考えた真剣なご意見をいただきました。

田鳥区につきましては、平成24年4月から内外海小学校に通学することと同意していただき、改めて関係の皆さんのご理解とご尽力に心から敬意と感謝を申し上げます。

東部4地区の小学校統合につきましては、昨年から実質的な協議に入り、東部地区小学校統合準備委員会で建設候補地案をまとめていただきました。

今後は、準備委員会である程度まとった案ができた後、統合に向けて具体的に話を進めていくことになると考えています。現在のところ、

平成31年4月の開校ということですが、少しでも早く、よりよい教育環境の場で学習できるようにしたいと考えています。

また、南部や北部のブロックにつきましても、地域の皆さんにご理解いただき、同意が得られたところから、統合再編を進めていきたいと考えています。

◆観光・誘客対策

【坂口】 舞鶴若狭自動車道の小浜インターチェンジが昨年7月に完成して、今後ますます観光・誘客対策が重要になると思われませんが。

【市長】 本市では、NHK大河ドラマ「江」の放映効果などで、江の姉の「お初」の菩提寺である常高寺や小浜城跡、小浜西組重要伝統的建造物群保存地区などにも多くの観光客においていただきました。

3月にオープンした道の駅「若狭おばま」は、小浜インターチェンジが供用開始した7月以降に、利用者が着実に伸びており、「おばま観光局」の誘客への取り組みなども合わせ、新たな情報発信スポットとして期待しているところです。

若狭おばま観光協会におかれまし

ても、京極家のゆかりをきっかけにして、独自に香川県丸亀市の観光協会と交流協定を結ばれるなど、つながりや絆が大切にされる年であったと思います。

つながりで忘れてならないのは、オバマ米大統領のご縁でハワイのホノルル市に、わたし自身、訪問させていただいたことです。

ホノルル市民ひとりひとりが「もてなしの心」を持ち、お客様の気持ちを酌む徹底した対応は、一流の観光都市として感銘を受けた次第です。まさに、地域の魅力はそこに住む人々によって作り出されるものでありますので、本市でも、おいでいただいた観光客が直接市民と触れ合



平成23年7月に開通した小浜インターチェンジ

い、小浜市の優れた地域資源を体験していただける仕掛けづくりが大切であると考えます。

既に、ブルーパーク阿納における修学旅行、教育旅行の受け入れ、キッズ・キッチンと野菜の収穫体験を組み合わせた食育ツーリズムの実施などにおおま観光局が取り組んでいるところですが、本年も小浜市の魅力を凝縮した着地型の体験観光メニューを整備し、発信していきたいと考えています。

市内の各地域においても、宮川地区では広大な畑一面にヒマワリを栽培され、加斗地区では若手を中心に、鯉川シーサイドパークに芝生広場を整備されました。また、遠敷地区では京極童子ゆかりの井戸を地域の宝として見直す取り組みが実施されるなど、地域づくりが積極的に進められています。

それぞれの取り組みは、地域の皆さんが自分たちの地域をよくしようとする活動であり、それらの活動は、市民ひとりひとりがそれぞれの地域を愛することにつながり、ひいては、おいでいただいた観光客に自信と誇りを持って紹介できる「もてなしの心」へとつながるものと確信しています。本年も、オール小浜体制で観光振興に臨みたいと思います。

◆歴史文化を生かしたまちづくり

【坂口】 観光・誘客対策とも関連しますが、昨年3月に若狭町と共同で策定されました、「小浜市若狭町歴史文化基本構想」についてお聞かせください。

【市長】 文化庁から全国20か所のモデル地域の一つとして選定され、昨年の3月に策定した「小浜市若狭町歴史文化基本構想」では、多くの文化財を結び付けて一つのストーリーにまとめ上げ、各地域の皆さんが誇りと愛着を再確認して、新たな観光やまちづくりに結び付ける保存活用について方針を示しています。

例えば、地域の小さなお祭りや行事の中にも、京都との交流の影響や日本の信仰ともいえる神仏習合の影響が見られます。身近な文化財の魅力を再発見して、小浜の宝として生かし、これらを「鯖街道の文化遺産」、「神仏習合の文化遺産」としてトータルで情報発信することによって、小浜や若狭地域を代表する遺産として、新たな宝の輝きを見せるのではと考えています。

昨年は、通常、足を運びにくい文化財を再発見し、活用の事例を示してみようと、住吉区にある「旧旭座」でのジャズナイトやワークショップ、国登録文化財の「小浜聖ルカ教会」と「山川登美子記念館」での明治時代をしのんだクリスマスイベントなどを開催しました。このように、多くの皆さんが身近な文化財に誇りと愛着を持ち、楽しみながら文化財の活用を進めることにより、歴史文化のまち小浜をさらにPRしていくものと考えています。

旧旭座は、県内で唯一残る芝居小屋で、全国でもわずかに30か所程度しか残っていない貴重な文化財です。専門家のお墨付きもあり、各種団体からも保存や活用の要望を受けています。旭座は小浜のまちなちのぎわいの歴史を象徴しており、その復

◆少子化対策

【坂口】 少子高齢化が進む中、若者たちが働きやすい環境づくりを行うための子育て支援策などについてお聞きしたいのですが。

【市長】 少子高齢化については、仕事と子育ての両立に対する支援に重点を置き、安心して子どもを産み育てられる環境づくりと子育て支援事業に取り組んでいます。

延長保育や夜間保育、一時保育の実施、放課後児童クラブの開設などの保育サービスの提供、子ども医療費の助成など子育て世代への支援によって少子化が防げたらと考えています。

中でも、未入園の親子が集う場として開設している子育て支援センターは、利用者が大幅に伸びてお



子育て支援センター

り、地域の子育て支援として大きな役割を担っています。

今後は、すべての子どもに良質な生育環境を保障し、子ども・子育て家庭を社会全体で支援していくことが必要であり、地域との連携はますます重要になってくると思います。

また、今年「OBAMAで愛応援事業」という男女の「出会い」を応援する事業にも力を入れ、一組でも多くの方が結婚し、少子化対策につながればと期待をしています。

なお、平成25年4月の認定子ども園の開園に向けて、今年、現在小浜第一保育園および幼稚園の改築などを行い、良好な保育環境の整備を行うこととしています。



ジャズナイトが開催された旧旭座(平成23年10月8日)

◆財政状況と行財政改革

【坂口】 第5次の総合計画に基づいた施策を推進するうえで、健全な財政運営が不可欠と思われませんが、小浜市の財政運営はどのようでしょうか。

【市長】 小浜市の財政状況ですが、平成22年度普通会計の決算では、「実質単年度収支」は約1億3千万円の黒字となり、3年連続の黒字決算となったところです。

また、家計での貯金にあたる財政調整基金を昨年度より約1億9千万円増額し、12億5千万円としたところです。市長就任時には約8億円で、3年間で4億5千万円の積立増を行いました。

一方、借金にあたる地方債残高は、この3年間で約11億円減少させ、158億円となりました。

このように、「マニフェスト」の一番に掲げています「財政改革断行」の成果が徐々に出てきているものと思っています。

しかしながら、今後の財政状況は歳入では景気低迷などによる市税の減少、一方、歳出では社会保障関係経費の増加が予想されることから、厳しい状況が続くものと認識しています。

このため、第5次小浜市行財政改革大綱に沿って行政改革を継続するとともに、持続可能で健全な行財政運営に引き続き取り組んでいきたいと考えています。

◆企業誘致

【坂口】 市内の経済状況は、依然として厳しい状況であると聞きますが、地域経済活性化のための取り組みはどのようにお考えですか。

【市長】 財政健全化のためにも税収アップは必要でありますし、若者の働く場の確保と、経済の活性化は大切であると考えております。

このため、企業誘致につきまして、市長就任時のマニフェストとして「自ら先頭に立って小浜の風土に合う活力ある企業を誘致し、若者の雇用の確保に努める」を掲げ、就任以来、積極的にトップセールスを展開してきました。

昨年7月には、多田の旧ポリテクセンター小浜分所跡地で、日本ユニシス株式会社小浜データセンター建設工事の安全祈願祭が行われ、今年4月にはいよいよ操業が開始される予定です。

また、昨年から植物工場の誘致に

向けた取り組みを積極的に進めています。この工場は最先端の技術を導入した完全人工光型植物工場で、日本では初めてとなる結球レタスの栽培などを行うと伺っています。食のまちにふさわしい企業であり、誘致の正式決定に向け、引き続き努力していきたいと考えています。

これに加え、京都に本社がある出版物の企画、制作販売会社の「いろは出版株式会社」が平野区にある廃工場を新たに物流倉庫兼作業場として活用し、事業展開を図っていたことにになりました。社長は小浜市出身の詩人「きむ」こと木村行伸氏で、小浜市の地域発展に貢献したいという思いから、本市への進出が決定しました。本当にありがたいことであり感謝しています。



いろは出版株式会社の開所式（1月9日）

日本電産のJA前企業用地への移転、新築につきましては、昨年11月に日本電産本社の永守社長とお会いし、その場で着工に向けて前向きな言葉をいただいたところです。まだまだ課題もありますが、早期着工に向け、今後も鋭意努力していきます。

また、荒木区のAGC若狭化学株式会社におかれても、工場の拡張計画があり、こうした地元企業に対する支援も含め、雇用の場の確保という観点から、鋭意、企業誘致に取り組んでいきます。

雇用を取り巻く情勢は、長引く景気の悪化を受け厳しい状況でありますが、企業誘致や地元企業の振興、育成にいっそう力を注いでいきます。

◆今富公民館の建設

【坂口】 地域活動の拠点である公民館の整備についてお聞きします。今年から老朽化した今富公民館の建て替えに着手されるとのことですが、その計画について教えてください。

【市長】 今富地区の人口は5千人を超え、また公民館の利用者数は延べ1万3千人となっており、地元の皆さんから地域活動や災害時の避難場

所としても手狭ということ、以前より建て替えの強い要望をいただいています。

このような状況において、建設財源が確保できる見通しとなりましたので、平成24年度に造成工事、平成25年度に建設工事を実施し、平成26年度から供用開始という計画を進めていきたいと考えています。

◆道路交通網

【坂口】 国道162号大手橋・西津橋の架け替えなど、主要な道路整備についてお聞きしたいのですが。

【市長】 国道162号に架かる大手橋、西津橋は70年以上たつ老朽化した橋です。

現在は、道路の幅員や線形の変更を行うための都市計画道路の変更手続きは終了しており、平成24年度の事業採択を目標に県と共に頑張っているところです。今後も一日も早い



老朽化した西津橋

完成を目指し活動していきます。

また、拡幅などを計画している小浜縦貫線の広峰・大手町間ですが、小浜市にとって大きな事業になると思います。

住吉・酒井間については、地元でまちづくり協定を結び、風情のある町並みが形成されました。

広峰から大手町間についても、地元の方々と一緒に、夢のあるまちづくりを目指し道路整備の事業を進めていきたいと考えています。

◆大相撲若狭小浜場所

【坂口】 昨年10月の「食のまつり」では、大相撲の大関琴欧州関が来られ、会場を大いに盛り上げていただきましたが、その大相撲が今年小浜市で開催されると聞きましたが。

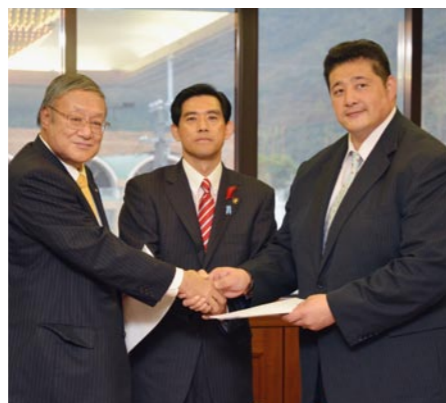
【市長】 昨年10月に、市の60周年記念事業などに合わせて、大相撲の開催を予定していましたが、諸般の事情で中止になり非常に残念でした。

本年の4月3日、4日の2日間、小浜市制施行60周年と小浜商工会議所創立60周年の記念共催事業として、市民体育館で35年ぶりに大相撲若狭小浜場所が開催されます。

若狭小浜場所では取組のほか、力

士による福祉施設などへの慰問も計画されており、多くの市民の皆さんに喜んでいただけるものと考えています。

当日は、迫力ある取組が観られる絶好の機会ですので、市民の皆さんはもちろん、市外、県外からも多くの方にお越しいただき、楽しんでいただきたいと思います。



相撲協会との本契約(平成23年10月25日)

◆今年の抱負

【坂口】 市長の本年にかける抱負をお伺いします。平成24年、今年はどうな年にしたいとお考えですか。

【市長】 本年は、市長に就任して、3年5カ月が経過し、任期最後の締めくくりの年となりました。

この間、市長としての責任の重さ

と寄せられる期待の大きさを実感しながら、「ワクワクできるまち小浜、いとこ小浜づくりのために、一生懸命いい仕事をした」との思いを胸に、市政の舵取りに励んできました。

これまで、行財政改革・財政の健全化をはじめ、市民参加協働型市政の推進、観光振興、企業誘致、少子高齢化対策など、多くの課題に直面しながらも、市民の皆さんのご理解とご協力により、今日まで市政を運営できましたことに対して、心から感謝申し上げます。

第5次の小浜市総合計画で掲げさせていただきましたが、まちづくりは「夢」を実現させていくことであると考えています。今後とも、「夢」を持って、「夢」に向かい、その実現を目指し施策を進めていきます。

しかし、まちづくりは一人ではできません。市民の皆さんとともに「夢」を持ち、共に汗をかきながら、その力を結集すれば、「夢」はかない、感動が生まれると思っています。

目指す将来像『「夢、無限大」感動おぼま』の実現に向けて、残された期間、全力をあげて取り組んでいきますので、市民の皆さんのいっそごうのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。